学校をつくろう!通信

がっこう・N.P.O.
珊瑚舎スコーレ
第125号

学校の役割　　その　１０５

みなさんは死刑をどうお考えでしょうか？１３の生命が２０日ほどの間に人為的終焉を迎えました。人為的終焉を制度的殺人と言い換えることもできます。制度的ということは政治的意図に影響をうける可能性のある殺人ということです。僕はあってはならないこと、とんでもないことと考えています。冤罪の可能性もあります。人は人の命を奪ってはならない、それがヒトという生命現象に対する人間のマナーです。

生命活動は自然現象です。人為から生まれる善や悪などの相対的な価値とは無縁のものです。生命を罰したり、逆に褒めたりすることなどできません。私たちは、例えば太郎や花子と名付けられ、或いは途中から何とかマングローブとか、その逆は知りませんが、自分を様々に名づけたりします。天然自然から与えられた自分専用の生命に乗っかって自分を生きている、私達人間はそういう生きものです。何とかマングローブさんを褒めたりデラックス何とかさんを叱ったりは出来ますが、生命そのものを褒めたり叱ったりはできません。

オーム真理教の元信者に対する死刑執行の報道を見聞きしていると制度や権力の薄気味悪さを感じます。それは死刑制度には生命を弄んでいるとも受け取られるような傲慢さが付きまとうからです。

芥川龍之介に「蜘蛛の糸」という作品があります。初等部の日本語では、この「蜘蛛の糸」を教材に取り上げました。パロディーを書くことが目的ですが、共通するのは「理不尽」をパロッて新しい物語を書こうというものです。スッキリした答えがなかなか見つからない「テツガクする時間」に言葉を与える授業です。

去年の後期から始めています。メインの教材は「よだかの星」、「なめとこ山の熊」、今年は「桃太郎」、そして「蜘蛛の糸」の４作品、「蜘蛛の糸」で一区切りになります。「桃太郎」については前号で結塾J&Sの文章講座での生徒の文章を紹介しましたが、結塾J&Sの文章講座は１００分の授業が月に一度なので、初等部の「日本語」のダイジェスト版のような形になっています。

初等部の授業で「蜘蛛の糸」を取り上げて間もなく、今回のオーム真理教の元信者に対する死刑執行の報道がありました。授業では死刑制度やオーム関係のことには触れませんでしたが、タイムリーなことでビックリしました。もちろん、「蜘蛛の糸」は死刑制度を云々するための作品ではありません。それどころか、道徳教育のための手頃な作品と受け取られています。「自分ばかり地獄からぬけ出そうとする、犍陀多の無慈悲な心が、そうしてその心相当な罰をうけて、元の地獄へ落ちてしまった」という件に読者の大半は安心するのです。芥川自身、この作品についてどのようなことを言っているのか、不勉強で知らないのですが、芥川にはこの位置づけは甚だ不本意なものに違いないと思うのです。芥川がこの件を書くためだけに蜘蛛の糸を書いたとは到底僕には思えません。

それはお釈迦様や極楽についての記述に対してみんなで感想や意見を出し合っている時に生徒自身が気づいたことです。「偉そう」「気まぐれ」「暇つぶし」「無責任」「静かすぎる」「何かキモイ」など、お釈迦様や極楽に対する肯定的な感想はありません。お釈迦様の「傲慢さ」や「薄気味悪さ」が浮かび上がります。「蜘蛛の糸にすがるのは当たり前、犍陀多の後を他の罪人が追うのも当たり前」、「自分勝手を言った犍陀多が地獄に落ちたのは仕方ないけど、他の罪人まで落ちるのはおかしい」「はじめから糸を下ろさなければいい」死刑制度に対しどんなに検討を重ねても、それを正当化するには言い訳が必要です。生命現象は言い訳とは無縁のものです。（ほ）

がじゅまる しんかぬちゃー

（生徒・学生のコーナーです）

「ハーリー」

初等部　平良栄太

今年の馬天ハーリーはできませんでした。理由は、台風で中止になったからです。ほうこくがきた時は残念でした。でも、練習では楽しいことだけでした。

ハーリーをやろうと思ったのは、前からハーリーというきょうぎにきょうみがあったからで、実際やってみるときついけど楽しかったです。

せんぱいからカイのこぎ方などを教えてもらいながら、ハーリー船に乗って２時間くらいカイのこぎ方や他の人とカイを合わせる練習をしました。

練習がおわると、みんなでとびこみをして遊びました。ぼくは最初はできなかったけど、本番前の練習の時に、初のとびこみができて楽しかったです。

来年にはもっともっとうまくなって、だれかにカイのこぎ方を教えられるぐらい上手になりたいです。

ハーリー本番に向けてずっとやってきた朝のたいかんトレーニングをこれからも続けて、力をつけてがんばりたいです。

「慰霊の日特別授業」

高等部　上野響生

伝え方が大事だと思った。今回は「魂魄の塔」について調べた。その中で去年の慰霊の日の時に調べたこととつながる所があった。その時に自分の考えがさらに深まった。

それは想像できたからだと思う。僕は戦争を体験していない。いくら沖縄戦の悲惨さや苦しさを聞いても情報でしかない。その悲惨さや苦しさを理解することは難しい。でも想像することはできる。僕は調べたこと、聞いたことを自分に置き換えて想像した。ただの知識にならないように自分の考えをもてるように。そして今の沖縄につなげられるように。つまり伝える側だけじゃなくて伝えられる側にも準備が必要なんだと思う。

今回は自分の考えと調べた情報だけしか伝えられなかった。伝えられる側も準備できる伝え方も考えないといけない。それが出来れば「繰り返さないためにどうすればいいか」ということに繋がると思う。

僕はまだまだ勉強不足だと思う。珊瑚舎は学ぶチャンスをくれる。それを逃さずに色んなことを経験して、学んでいきたい。

ふくぎのふぁー

（講師・スタッフのコーナーです）

「珊瑚舎スコーレとの出会い」

高等部・自然講座担当　水山　克

初めまして、今年度から高等部の自然講座を担当している水山克（ミズヤママサル）です。

私は琉球大学大学院理工学研究科で海洋環境学を学ぶ大学院生です。「沖縄の過去と現在で海岸の環境と生き物たちがどう変わってきたのか」をテーマに研究活動をしています。研究活動というと難しく

聞こえるかもしれませんが、潮が引いたときに海岸に出てどんな生き物がいるか探したり、図書館やアセスメント会社を訪ねて昔の沖縄のどこにどんな生き物がどれだけいたのかを調べたり、ということをしています。

海の中に暮らす色とりどりのサンゴやウミウシ、熱帯魚なんかに比べると、海岸に出てくる貝やカニ、ナマコなどには思わず目を奪われるような華やかさはありません。でも、半分海で、半分陸という不思議な環境だからこそ、私たちはそこで食料を採ったり、野山を散策するように海岸を散歩して自然と触れ合ったりすることができます。「波打ち際は生と死を分かつ際だ」（五十嵐大介、怪獣の子供）という表現がありますが、海岸に住む生き物たちはそんな生と死の狭間で逞しく生きています。

ご縁を頂いて、この春からこちらの珊瑚舎スコーレでも、沖縄の海岸で見ることのできる生き物たちを紹介しています。那覇から行くことのできる自然海岸は決して多くはありませんが、全てが護岸で埋められているわけでもありません。自然を見ることができるようになるにはとても時間がかかります。同じ場所に何度も何度も通って初めて見えるようになるものがあり、見慣れた頃に初めて気づく変化があります。那覇近辺に自然海岸が残っている間に、高等部の学生たちにそのような自然感を培ってもらえればと思います。

さて、このような思いを胸に高等部の学生たちをまずは半年間海岸に連れ出してみました。前期最後の授業で感想文を書いてもらったのですが、やはりカニやアサリが人気だったようです。確かに砂浜を掘って普段は隠れている生き物を見つけるのは楽しかったですね。クラゲは流れ者なので、見たいと思ってもなかなか現れてはくれませんでした。10月にまた探しに行きましょう。次は海に入りたいという人がいる一方で、もう海はキライという人もいます。どうしましょう。珊瑚舎に眠っている水槽を見つけたので、後期は生き物飼育をしてみるのもよいかもしれません。

半分学生で半分先生の私と、半分子供で半分大人の高等部の学生たち。半分海で半分陸の海岸で、これからも楽しく一緒に沖縄の自然を学べたら幸いです。

子どもがんまり便り

「子どもがんまり」は小学生、中学生を対象とした昔の沖縄の知恵を体験するプロジェクトです。年５回、様々な講師を招いて昔ながらの沖縄の遊び道具作りや畑の作業、かまどでの食事作り等を体験します。

「子どもがんまり」に参加して

藤原沙織（5月27日参加者）

初めて訪れた珊瑚舎スコーレの「山がんまり」は南城市佐敷という住所の印象からもっと遠くだと思い込んでいたけど、うちから車で30分程度。思ったより近かった！山の斜面を珊瑚舎の先生と生徒と関係者みんなで10年以上かけて少しずつ開墾してきたそう。東屋を建てかまどをつくり畑をつくり電気はなし。水は雨水をタンクにためたものを大切に活用、トイレも循環タイプを完備（全然におわない！）。太い木にはハンモックやターザンロープ、丸太のブランコが張ってあって子どもたちは大興奮！！暮らし、学び、遊び、ぜんぶがひとつに集まってる宝箱みたいな場所でした（ただし、虫刺され対策は必至）。

受付（会費の支払いと持ち寄ったひとり1合のお米の提出、ガムテープの名札作成）を済ませたら珊瑚舎のヒロシさんから　山がんまりでの注意事項の説明があり、さっそくきょうの先生である「畑の学校」の主宰ふみちゃんこと上原文子さんが講師となって午前中は野草や沖縄在来の草木について教わりました（子どもたちは思い思いに自由に遊びはじめてた）。いろんなことを教えてもらったけど個人的にいちばんの発見は…ミカンの葉があんなにいい香りだっていうこと！水に入れて香りをうつして飲んだりするんだそうです…。　やってみたい！そしてお昼ごはん用にと子どもたちは畑で育てていたニン

ジンを間引き、大人はアカバナーの花と若葉月桃の花を摘みました。

お昼は風通しのよいコテッジで　総勢33人が車座になっていただきました。お献立は羽釜で炊いたごはん（おこげ付き）に　たっぷりもずくと島豆腐のおすまし。副菜はピーマンの肉詰め野菜サラダ添え。そして本日のスペシャリティ、アカバナーの葉と月桃の花の天ぷら（！）。特に葉っぱの天ぷらは子どもたちにも大人気であっという間に完売。葉っぱにとろっとした粘りがありサクサクの衣とのバランスが絶妙で人気なのも納得！月桃の花の天ぷらも花びらが柔らかな歯触りでほんのりした甘みと香りもあって…。この季節ならではの特別な味わいを堪能しました。さらに穫れたて間引きニンジンのまるかじりも…　うーんお腹いっぱい！食後のお茶は月桃の葉とレモングラスのハーブティー。香りのよさにウットリでした。

午後はふみちゃん指導で「草遊び」。クバの葉を使ってクバ扇づくり！これいちどやってみたかったのだー。直径１メートルにもなりそうなクバの葉をハサミで切り取り（クバにストレスを与えないように…　ありがとうね、とつぶやきながら）。これを中心から２つに分けて、扇を２つつくる。ギザギザありトゲトゲあり。素手だったのでドキドキしながらの作業だったけど（ふみちゃんは涼しい顔でザクザク！）。あんばいよくできあがりました＾＾　これが日を追うごとに色あせ乾き、よく見る感じの扇になっていくのかなーと思うとそれもまた楽しみ。切り落としたクバの葉先をじっと見ていたら何かつくれそう…と思えてきて、自己流工作タイムに突入。なんちゃって座布団？ランチョンマット？っぽいものができました。（息子は年下の子どもたちが乗った丸太ブランコを　黙々と揺らしてあげていた…　何も言わないけど　それがどうやら楽しいらしい）。

おやつタイムにはアカバナーを乗せた野草ピザ！色合いが美しくて香ばしくて…。でもわたしはお腹いっぱいだったのでお土産に汗。気づけば15時、あっという間の解散時間。集合写真を撮って、またねー！時間を忘れるくらい　楽しく過ごさせてもらいました。

＊今後の予定：11月25日（日）・2019年1月27日（日）です。ご参加ください。

珊瑚舎スコーレの授業風景

初等部・中等部「人間の営み」、
高等部「平和学講座」の取り組み

初等部から高等部までの社会科系の授業（「人間の営み」「平和学講座」）では、今年度からカリキュラムを変更して取り組んでいます。昨年度から担当講師を中心にカリキュラム会議を重ねて以下のようにカリキュラムを編成しました。

１．「自由」「自立」「平和」という抽象的な概念に内実を与える授業に取り組む【視点】

２．同じ時期に初等部から高等部まで共通の内容を扱う【テーマ】

「自由」「自立」「平和」を考えるためにそれぞれにもう少し具体的な視点を設けました。自由の視点として「制度/アイデンティティ/沖縄」、自立の視点として「経済/メディア」、平和の視点として「文化・文明/暴力/環境と開発」を上げています。授業ではさまざまなテーマを取り上げながら上記の視点を持って「自由」「自立」「平和」を具体的に考えます。

前期はじめのテーマは「学校」です。初等部は、世界の学校について調べました。さまざまな国の学校と日本の学校の比較をして、時間割・制服・給食の違いなどそれぞれが気になったことを調べました。調べた内容はオリジナルすごろくのマス目に取り入れています。世界を周りながら各国の学校の様子が分かるすごろくです。制服について調べた生徒は、マス目をつくりながら「ベトナムではアオザイという伝統衣装が制服になっているけど、日本でも伝統衣装が制服の学校があったらいい」と考えていまし

た。後半の授業では「珊瑚舎をこうしたい！」という話し合いから、鬼ごっこのルールについて検討しました。どうすればみんなが楽しく遊べるかの議論は、その他の学校生活にも及ぶ内容でした。

中等部は、学校の「イメージマップ」を作ることからはじめました。「自分のことなのに決められない」等のネガティブなイメージが多く上がりました。自分たちの学校生活を考えるために、様々な学校を見学に行きました。はじめは珊瑚舎スコーレ夜間中学校にサポーターとして参加しました。それから珊瑚舎とは違うスタイルの「みぃち」というフリースクールの子どもたちと交流したり、沖縄大学のゼミや沖縄尚学高校の授業に参加しました。見学後も質問を送ったり、アンケートなどをお願いしました。さまざまな学びのスタイルを体験して自分たちが必要な学びについて考えました。

高等部は、近代化と学校について授業を進めていきました。江戸時代の寺子屋と明治時代の学校の絵を見比べてその変化を書き出していきました。現在の自分たちの教室は明治の教室に似ていることに気付き、自分たちに合った教室のレイアウトを考えていきました。（詳細については高等部生徒の文章を参照ください）。

まにまに祭では「人間の営み＆平和学講座 合同発表」を行いました。それぞれが授業で考えたことを紹介し、最後に「珊瑚舎がもっと良くなる新提案」を発表しました。

初等部：スマホ禁止ディをつくる。
最近休み時間にみんなで遊ぶことが少なくなった。スマホをする人が多く、スマホを持っていない人はヒマしてしまうのでスマホ禁止ディをつくる。みんなで鬼ごっこやトランプなどできるようにしたい

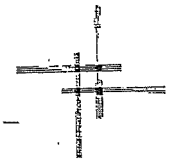
中等部：①アンケートや話し合いをして生徒の興味ある本を珊瑚舎に置く。
②生徒のやりたい授業を週１回のスコーレタイムの時間にできるようにする。
③ふれあい交流。他のフリースクールとの交流や交換留学制度をつくる。

高等部：教室の新レイアウト
話し合いがしやすい/好きなことが学べる/隠れるスペースがある。

まにまに祭では、これらの提案を受けて校長の星野（ほっしー）が生徒にコメントを返しました。

「30年前から教育現場は様々な問題を抱え続けています。2020年に改訂される新学習指導要領では『主体的で対話的で深い学び』の実現が求められていますが、いまのような学校の形ではそれはむずかしいと思っています。自分たちの学び場をもっと良くするための提案を生徒たちが考えていることが素晴らしいことです。珊瑚舎が県の委託を受けて運営している塾ではこのようなレイアウトに近い教室があります。新レイアウトでやってみたら良いです。大事なのはみんなと相談しながら進めること。ひとりよがりにならないことです。今回生徒が考えていることはかなり進んだ取り組みです」

生徒の提案は珊瑚舎をどんな風に変えていくのでしょうか。やってみるとさらに色々な気づきが生まれてきそうです。（松田浩史）



カジマヤー
（風車）

「平和学講座」

高等部　橋本思織

今年の平和学講座では、『学校』について学んでいます。１９世紀初頭に誕生したモニトリアムシステム、沖縄の学校、江戸時代の寺子屋、明治時代の近代的な学校について学ぶことで近代になるにつれて産業化、合理化、国によって画一化されてきたことがわかりました。

そして、前期学んだことをもとに新しい教室のデザインを考え始めます。最初は珊瑚舎ではなく自分の空想の教室をデザインし、コンセプトとともに発表しました。本棚に囲まれた教室、ゲームが学べるようにパソコンの置かれた個室がたくさんある教室、話し合いがしやすいように丸い机の置かれた教室、隠れられるところがある教室など様々な案がでました。しかし、面白いことにコンセプトを聞いてみるとみんながほぼ同じようなコンセプトを持っていた

のです。

１．意見が出やすいこと（みんなの顔が見える、少人数）
　→今の机ではない物を使う
２．目の届かないスペースがあること
３．好きなことが学べること

この三つをベースに今度は高等部の教室デザインを考え始めました。まず１は知識のインプットが大事なのと同時に他者との対話も同じように大切なはずなのに今の机はそれ向きではないよね～という意見からでたものです。中央に丸い机を置いてそこに５人ほどが座れるようにしました。

１は、人間である以上いつもみんなと同じじゃなくていい。（画一的な教育ではない形にしたい！）という意見からでたものです。どうしても学ぶのがつらい時そこで一人になれて、教室内にあるのでみんなの声も聞こえつつ戻りたくなったらみんなのところに戻りやすいのがポイントです。そこに籠っちゃうんじゃない？という意見も出て論争になったけれど、ルールを作るのではなくその時々に話し合うことで柔軟な対応をしていけば大丈夫！ということになりました。

２は提示されたカリキュラム内だけではなく、自分たちで発案して学んでいきたい！と言う意見からでた物です。しかし『好きなこと』が個人個人で完結してしまうと学校の持っている他者との出会いを通して自分を対象化、言語化、そして批評できるという特性が活用できないので、１の様なスペースと２の様なスペース、二つあることによって個人と集団の良いところをどちらも発揮できるデザインができました。実際、平和学講座の授業で試してみたところ一時間で直してしまうのは惜しいくらいとてもいいデザインになりました。講師の源さんによると「講師からしたら授業のスタイルを完全に変えなきゃいけないから結構大変」とのこと。

後期はぜひ他の授業でもこの形でやってみて、さらに良くして新珊瑚舎の教室案に活用してもらえたら嬉しいです～！

「珊瑚舎スコーレ夜間中学校に対する支援事業継続についての署名」のお礼とご報告

「珊瑚舎スコーレ夜間中学校に対する支援事業継続についての署名」は、先の定例県議会開催後にも引き続きたくさんの方から届いております。

前回協力いただいた分と合わせて計２０、８７６名分の署名をいただきました。ありがとうございました。６月８日義務教育課に提出しました。その場で沖縄県教育委員会平敷昭人委員長より平成３０年度の事業を継続する旨が伝えられました。珊瑚舎スコーレが要望してきた学齢期を過ぎた義務教育未修了者の支援は見送られ、戦後補償としての１０年枠（昭和７年～１６年生まれ）の生徒のみの支援ですが、皆様の署名が大きな力となり、今年度の支援継続が認められました。全国から署名を送ってくださった皆様に心よりお礼を申し上げます。

★　★事務局便り　★　★

★　８月４日前期学習発表会「まにまに祭」をおこないました。昼・夜併せて２１演目の発表があり、学びの姿を見て頂きました。まるで沖縄が避暑地かと思うほどの猛暑が続いています。ご自愛下さい。

★　★　★

●今年度（６月１日～７月３１日）寄付・カンパを頂いた方々
石田みどり鹿糠文子坂本和子岡村健手塚賢至照本祥敬市野寿子当山幸江森口美千恵三浦幸子山田道子助川寿美子式部恵子丹羽雅代與儀勝子与那覇晴海湯本貴和上田秀一大城喜春北上田登久子盛口佳子真津昭夫家門収一長嶺由紀子橋川由美子小渡律子幸地江美子城間あずき松茂良米子名城悦子所扶久代石野裕子矢崎智章尾崎せき松田晴代萩原真美城間栄順村上呂理伊波雅子仲里博彦下地孝野村佳雄松沢哲成西原邦男ウネオサム吉里さよ比嘉啓治比嘉孝子松田かおり富村盛宏株）沖縄物産企業連合古堅苗宜保洋子野原京子嵩元のり子上間洋子松田健次郎須川文子太田明夫奥本札生泉恵子今泉正臣与那覇光子大木ひろみ赤井朱美友寄和子照屋寛之島袋正雄関西よつ葉連絡会西村愛里大澤定順坂本新一朗穴田浩一上野文康諸見里安信伊佐川幸子中川清子内田圀吉キク上高徳広子俊夫岡崎奈々子上原清正嘉数チヨ岡戸ゆり子市村一江辰巳万里子安田圭太郎原田政美石川雅志城間智美國方あや山城良子松原慶子大城弘照屋まち子鈴木和男太田由紀子岡田弘隆ジュンク堂那覇店木山隆子佐久間順平松永さみ上野ほなみ上野きより

発行者　：珊瑚舎スコーレ事務局　遠藤知子
住　所　：〒900-0022　那覇市樋川 1-28-1-3F
Tel　：098-836-9011　Fax：098-836-9070
Mail　：sango@nirai.ne.jp
URL　：http://www.sangosya.com